

認知症、在宅医療・介護について考えてみませんか。

高齢化社会を迎えた今、10年後には5人に1人が認知症を発症するといわれています。また、「要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる」よう地域包括ケアシステムを作っていかなければなりません。そこで平成27年12月12日に「認知症」と「在宅医療・介護」のテーマで講演会、シンポジウムを行いました。

講演会「誰にも訪れる認知症とのつきあい方」より

認知症は誰もがなり得る状態。

早期診断や適切な治療・ケアで進行を遅らせることが可能。

認知症に早くから気づくことが大切。

「認知症になることを遅らせるための予防」

「認知症に気づき進行を遅らせる予防」

この2つの予防をスムーズに移行できることが大切。

認知症になっても隠さずにそれまでと同じように地域と関わりを持ちながら暮らせることが大切



佐伯保養院副院長 山内 勇人 先生

「認知症」に対する津久見市の取り組み

- ・スクリーニング検査：認知症や認知症になる可能性がある軽度認知障害（MCI）を早期に発見する希望される方はかかりつけの医療機関にお問合せ下さい。
- ・認知症サポーター養成：認知症について学び理解を深めます。
- ・認知症初期集中支援チーム：社会福祉士・看護師のチームが訪問します。
- ・認知症緊急見守りネットワーク：認知症の方が家に帰ってこない場合等関係機関と連携し、早期発見に努めます。事前登録を始めました。

シンポジウム「在宅医療と介護～津久見の10年後を考える」より

超高齢化社会を迎えるにあたり在宅医療へと医療の役割も変わっていくだろうといわれています。病気を抱えながら在宅で過ごす患者さんや家族が安心して生活していくためには、医師、看護師等の医療職や介護支援専門員、介護事業所等の介護職の連携はもちろんのこと、薬、歯科、栄養、リハビリ等多くの課題等があり、多くの医療・介護・福祉職種とさらに広い連携が必要になってきます。



「在宅医療と介護」に対する津久見市の取り組み

医師会、津久見中央病院、歯科医師会、薬剤師会、介護保険事業所、介護施設、中部保健所、津久見市地域包括支援センター社協、津久見市で地域の関係機関の連携体制の構築を推進する取り組みを始めています。

いつまでも元気で住み慣れた地域で生活していけるよう生活習慣病予防や介護予防により健康寿命を延ばしましょう。

この講演会は大分ケーブルテレコム(OCT)で下記の日程で放送されます。
平成28年2月7日(日)21時～23時、2月14日(日)・21日(日)・28日(日)22時～24時の放送予定です。

●問い合わせ先 / 津久見役所 長寿支援課

津久見市地域包括支援センター社協

☎82-9533

☎82-4124